

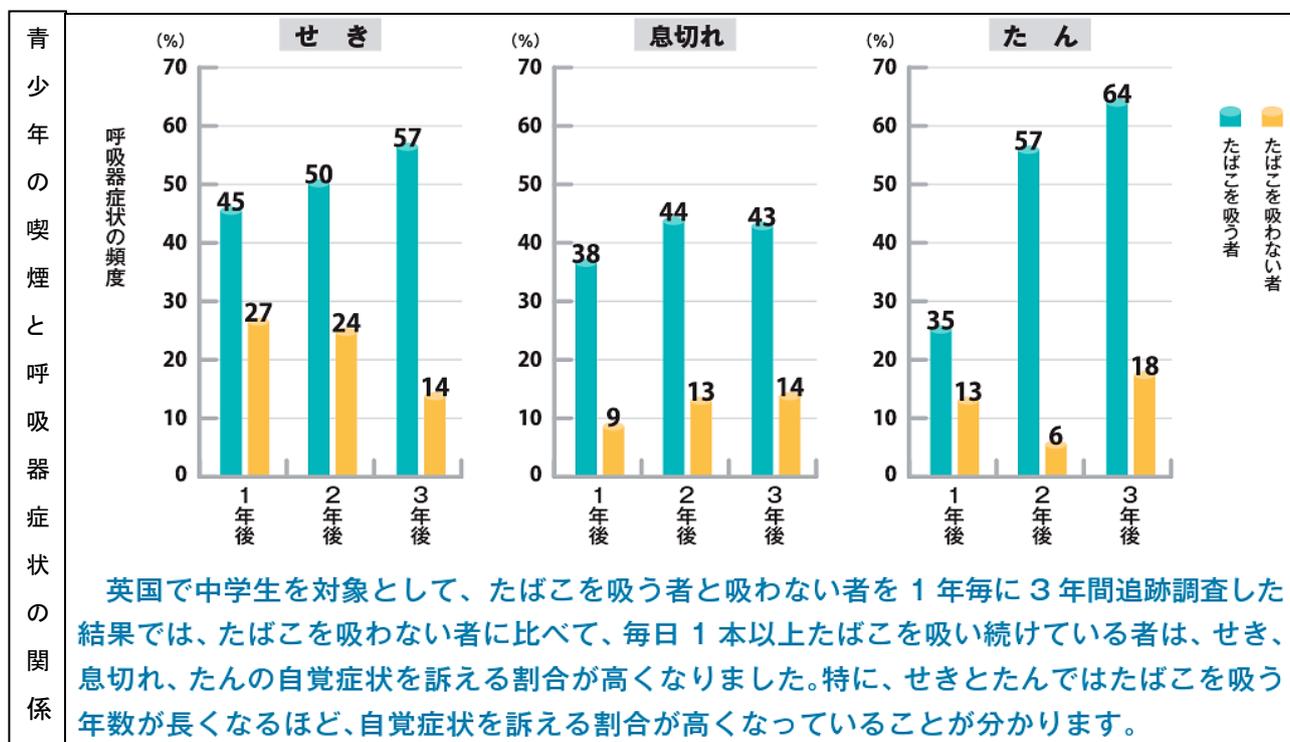
《健康だより》喫煙・受動喫煙の健康被害

環境保健部 平安山 智子

日本で発売されるすべてのタバコ製品の外箱に『**未成年者の喫煙は、健康に対する悪影響やたばこへの依存をより強めます。周りの人から勧められても決して吸ってはいけません**』と記載されています。喫煙者本人だけでなく、受動喫煙も若者の健康に害を及ぼします。そこで、日々の生活のなかでの喫煙の危険性や受動喫煙の悪影響について考えてみましょう。

Q なぜ若いうちからたばこを吸ってはいけないの？

- 10代での喫煙は大人よりもニコチン依存症になりやすく、たばこを止めることが難しくなる。
- たばこを吸い始めた時期が早い人ほど、肺がんや膀胱がんによる死亡率が上がる。また、喫煙を中止してもその後20年間は、発がん発症率が非喫煙者よりも高くなる。
- 10代での喫煙は「せき」「息切れ」「たん」の慢性症状に罹りやすくなる（下図）



Q 受動喫煙はどれほど危険なの？

- たばこの煙には、本人が吸う「主流煙」、吐き出された「呼出煙」、火をつけたたばこの先端から立ちのぼる「副流煙」があります。非喫煙者が副流煙や呼出煙を吸い込むことも体に悪い影響があります。これを「受動喫煙」といいます。
- (フィルターで濾過されない) 副流煙には、主流煙以上にたくさんの有害物質が含まれます。(ニコチンが2.8倍、タールが3.4倍、一酸化炭素が4.7倍も含まれる)
- 副流煙や呼出煙を吸うと、その人自身は非喫煙者であっても、肺がんや脳、血管の病気で死亡する確率が高くなります。

八洲学園大学国際高等学校は健康増進法で指定される特定施設で、学校敷地内は全面禁煙です。管理規則により、スクーリング中に生徒さんの喫煙(加熱式タバコ/電子タバコを含む)・飲酒が判明した場合は、年齢にかかわらず「即刻帰宅処分とする」と定められています。